
私の世界

親子井

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の世界

【コード】

N1520L

【作者名】

親子井

【あらすじ】

独り虚しく泣いたあの夜。

太陽の光が消え、月が明るさをもたらす。

そんな冷えた夜のこと。

鈴虫たちの合唱をBGMに、私は独り涙を流した。

何があつたつてわけじゃない。

ただただ、自分の存在が分からなくなっただけ。

私が存在してる理由は何だ？とか、こんな生き方でいいのか？

なんていう、難しいことか答えを求めてるわけじゃない。

こうして私が涙を流していることを誰も知らない。

そんな事実が私のちっぽけさをより確かなものにして行って、悲し

くて、辛くて、寂しくて、悔しくて。

言葉にできない感情が、涙という形で外に出される。

考えることが疲れる。

いつそのこと、誰とも関わることなくこのままでいたい。

私の心の中は、誰もいない夜の穏やかな海。

闇の中にゆらゆら動く波。

静けさに映える波の音。

冷たくもどこか心地よい風。

懐かしい塩の香り。

それらは、孤独に潜む安堵感に、日常に訪れる終わりに、似ていた。

どうしてこんなに虚しくなったか忘れたけど、頬にできた一筋の線

は乾かない。

無気力。

だけど、今ならなんでもできる気がした。

私が世界の中心だという気になって、妙な優越感が頭の中を埋める。

でも、やっぱり私は大きな大きな世界の中の、小さな小さな存在で

。。。

優しくも力強い光が視界を明るくし、BGMが小鳥のさえずりに変

わった頃、眠気が襲ってくると同時に、涙が止まったことを知った。

大きな大きな世界の中の、小さな小さな存在は、小さな小さな世界の中で、大きな大きな存在を創り出してゆく。

(後書き)

意味深な文章でゴメンなさい。

あまり深い意味はないです。

読んでくれてありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1520/>

私の世界

2010年10月17日17時05分発行